

平成31年度（令和元年度）事業報告

令和2年4月

野幌第一地域包括支援センター

1 平成31年度（令和元年度）重点目標及び評価

（1）平成31年度（令和元年度）重点目標

- ①地域づくりに向けた連携と情報共有
- ②医療連携の推進
- ③ケアマネジメントの強化
- ④認知症を支えるネットワークの構築

（2）平成31年度（令和元年度）重点目標に対する評価

- ①スタッフで地域に潜在する資源（地域の宝）を探し、情報共有の上、地域資源情報シートを作成し、地域資源を見える化した。また、北広島市にし高齢者支援センター（地域包括支援センター）を視察し、通いの場や第2層生活支援体制整備協議体の見学と情報交換を行った。
- ②社会福祉士部会で、医療ソーシャルワーカー協会と医療連携の中に見る権利擁護に係る研修会を開催した。
- ③自立支援の共有化を目指した研修会や事例検討会を開催し、江別市内のケアマネジャーの自立支援の意識の向上を図った。
- ④認知症高齢者検索模擬訓練への参画や認知症サポーター養成講座の講師を務め、認知症の人や家族を支えるネットワークづくりに努めた。

2 包括的支援事業

（1）総合相談支援業務

総合相談は年間実人数2,567人、延件数3,383件と、昨年度より294件ほど増えており、高齢者の総合相談窓口として地域に浸透してきている。方法は、電話が2,455件（72.6%）、訪問が598件（17.7%）、来所が263件（7.8%）、その他33件（1.0%）であった。相談者は、本人・家族が1,624件（48.0%）、関係機関が1,205件（35.6%）、医療機関が320件（9.5%）、民生委員等地域住民が109件（3.2%）、その他45件（1.3%）であった。相談内容としては、介護保険について61.0%、心身の健康状態について11.9%、住まいについて13.7%、認知症について9.2%などの相談が多かった。

①相談力の強化

障がい者支援センターから講師を招き、「障がい者支援の入り口」というテーマでスタッフの勉強会を実施し、障がい者支援について学んだ。

②相談実績の可視化

相談実績が可視化できるように、記録を徹底した。その結果、上記のような相談実績となったが、それ以外に介護予防出前講話等での出張窓口相談が41件あった。

(2) 権利擁護業務

①医療との連携による権利擁護

社会福祉士部会では、8月に北海道MSW協会との共催により、市内医療機関や居宅介護支援事業所等を対象として『医療・介護の連携にみる権利擁護～意思決定支援の展開』をテーマに講演会を企画開催した。

②高齢者虐待の予防

高齢者虐待に関する相談を9件受け、2件は虐待と認定され対応した。過去3年間の高齢者虐待について、対応事例の集計及び発生要因の分析を行い、調査報告書を作成した。また、成年後見制度に関する相談は16件に対応した。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①ケアマネジャー支援

ケアマネジャーからの相談は延べ238件あった。そのうちケアマネジャー支援として16ケースに継続的に関わった。また、野幌地区の他法人連携における居宅介護支援事業所等事例検討会に毎回参加し、助言や意見を述べた。

②ケアマネジャーの自立支援の意識向上

主任介護支援専門員部会では、ケアマネジャーの自立支援の意識の向上を目指し、自立支援に向けた事例検討会や、その人らしさや生活の質の向上を意識する研修会を9月と1月に企画開催した。

3 包括的支援事業（社会保障充実分）

(1) 在宅医療・介護連携推進事業

江別市医療介護連携推進協議会が実施する江別地域における多職種連携研修会や、薬剤師会と地域包括支援センターの合同研修会に参加し、多職種との連携づくりに努めた。また、おくすり手帳を活用した連携シートの活用等、医療介護連携に向けた取組に積極的に参画した。

(2) 生活支援体制整備事業

①地域づくりに向けた連携と情報共有

自助及び互助の重要性を普及し、住民自らの支え合いの意識の啓発のため、自治会や高齢者クラブ等に出向き、地域フォーラム（9回）や、地域の支え合い出前講話（2回）を実施した。また、北広島市にし高齢者支援センターを視察し、通いの場や第2層生活支援体制整備協議体の見学と情報交換を行った。

②地域資源の見える化

自治会役員等から、各自治会の活動や現状などを聞き取り、地域資源情報シート

を作成するとともに、地域に潜在する資源（地域の宝探し）や課題の把握をスタッフ全員で実施し、地域を見る目を養い、個別支援に生かした。

（３）認知症総合支援事業

①認知症を支えるネットワークの構築

認知症地域支援推進員を始め、介護・福祉・医療関係者、認知症サポーター、地域住民、民間企業等と連携して、認知症高齢者捜索模擬訓練に参画し、認知症になっても地域で見守り合い支え合っていくための体制整備を支援した。

②認知症の普及啓発

認知症の理解や予防について、高齢者、地域住民、児童・生徒など、幅広い世代が興味・関心を持てるように、認知症サポーター養成講座や介護予防出前講話にて、普及啓発を行った。

③認知症の早期発見・早期対応

初期の認知症の方や必要な医療や介護サービスの利用に至っていない高齢者等の把握に努め、早期受診や適切な対応等に結びつくように支援した。

（４）地域ケア会議

①個別事例検討型地域ケア会議

複雑な課題を有する高齢者や支援方法について慎重な検討を要する高齢者に関して、医療機関や専門職、親族や地域住民等の関係者が協議する『個別事例検討型地域ケア会議』を６回開催し、高齢者自身の望む生活や自立に向けたより良い支援に結びつくよう努めた。

②自立支援型地域ケア会議

多様な専門職の視点を活かした意見交換を通じて、自立に向けた適切な支援方策を検討する『自立支援型地域ケア会議』に事例提供し、ケアマネジメント能力の向上を図った。第２層生活支援コーディネーターとして参加した際は、個別課題と地域資源を結びつけるように支援した。７月には介護予防事業の先進地の岡山県津山市の視察に同行し、自立支援型地域ケア会議及び通いの場を見学し情報収集に努めた。

４ 指定介護予防支援事業及び介護予防ケアマネジメント

①自立支援に資するケアマネジメント

自立支援型地域ケア会議やONEぴーすの会（研修会・事例検討会）に参加し、利用者の自立に向けた支援方法を検討する中で、PDCAサイクルに基づき、自立に結びつけるケアプランとなるよう研鑽に努めた。

②インフォーマルサービスの活用

ケアプランの作成においては、公的サービスの利用のみならず、住民主体の通いの場や見守り等のインフォーマルな支援の活用も検討した。

③委託事業所との連携

ケアプランを委託する際は、事業所ごとに担当者を決め、円滑な連携を心掛けた。

5 一般介護予防事業

(1) 介護予防普及啓発事業

①介護予防教室の開催

身体・口腔機能の維持・向上、認知症予防、栄養改善など、自立した日常生活の維持に必要な知識・活動を多くの高齢者に普及啓発するため、『シニアの元気アップ講座』を2コース開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1コースは中止した。

②介護予防出前講話の実施

江別市民の団体を対象とした『介護予防出前講話』を15回実施した。

また、江別市の広報誌で通いの場で介護予防に取り組む実際の事例を通した特集に協力した。通いの場を通じて、人とつながり、心も身体も元気を取り戻していく内容に住民からの反響も大きかった。

(2) 地域介護予防活動支援事業

①介護予防サポーター講座及びフォローアップ学習会

介護予防に取り組む住民をサポートする人材を育成する『介護予防サポーター講座』を江別市と共催で開催し9名を養成し、既受講者への『フォローアップ学習会』を開催した。通いの場で活動する介護予防サポーターの側面的支援を継続した。

②介護予防に資する通いの場立ち上げ支援

介護予防体操のDVD等を活用し、通いの場の立ち上げや継続を支援するとともに、既存の団体が体操を取り入れることで、介護予防を意識した活動に発展させられるよう支援し、実施する団体が10か所に増えた。

③専門職地域団体派遣支援事業

介護予防に資する取組を行う団体の支援として、リハビリ職、歯科衛生士、栄養士の派遣のコーディネート及び同行を7回行い、106名が参加。介護予防体操を行う団体の増加や通いの場の定着につながった。

6 その他

保健師・看護師（北海道医療大学2名）や社会福祉士（札幌学院大学1名）を目指す実習生の受け入れや、北海道野幌高等学校で講義を行い、専門職の育成や福祉教育に協力した。